


たんぽぽ



NO. 38  
H2.7.29  
—発行—  
〒869-12  
熊本県菊池郡  
大津町森54-2  
社会福祉法人  
三気の会  
三気の里  
TEL096  
293-8100

ドゥースクロフト校の試み

理事長 田中 稔

ドゥースクロフト校はイギリスのエセックス州の親の会と教師アシュトンとの出会いと熱意の中から生まれた自閉症児専門の寄宿舎制学校です。この本の初めにリチャ

ードの9才と30才のときの状況を紹介した地元の新聞記事が乗っています。言葉を話さず、人との交流がなく一見健康そうに見えるが奇妙な振る舞いと激しいパニックを示す重い状況がこの20年間何も変わっていないと書いています。福祉、教育、医療から何も助けが得られなかったとも書いています。

一九四三年カナナが自閉症を報告して以来、英国でもその定義や療育法が揺れ動く中で自閉症児を持ち途方に暮れる親たちがいまし

た。専門家と言われる人達からどこからも援助が得られないことに失望し一九六三年に英国自閉症協会が結成されました。この運動の延長として子供の療育の場として専門校が親たち自らで作られ始めます。ドゥースクロフト校もその中の一つです。一九七七年五月に開校しています。他に自閉症児を受け入れてくれる所がないわけですから入校して来た子供達は最重度です。一人一人の子供が校門をくぐる度にさまざまいドラマが繰り広げられました。30人分の怪力の持ち主で悪魔に魅入られたように動き回り全身の力を込めて頭を壁に打ち付けるウィリアム。まだまだこんなもんじゃあない面々です。多くの時間、多大なエネルギーが求められました。今、目の

前で苦しみ好ましくない状況、問題行動パニックを起こしている子供がいます。それを何とかしようとして「実践」しています。常に前向きに考えることで絶望的にさえ見える状況を全スタッフで乗り越えています。議論しながら試行錯誤によって幾つかの行動修正のためのプログラムを考え出しています。子供に触れもせず（触れなければパニックの時の子供の力がどれだけのものか分からない）状況を解説しているだけの人も私の周辺にいます。私達親が求めているのは実践であって解説ではないのです。ドゥースクロフト校のモットーは「人間らしく生きていく。キーワードは楽しむ」です。治すことはできなくても人間らしさに近づけることは出来ると考えています。多くの失敗例、どうしようもなかった例も述べられています。幼児療育、学校教育期の終わった後のライフケアセンターの必要性も述べられています。

こうして見ると英国でも日本でも絶対少数派の自閉症児者のおかれています。療育の状況、親の状況、同じなんだなあという感が強くしました。

### 療育シリーズ

タナオロシ

園長 土井尚典

Nくんが入園して間もないころのこと、職員室に入って来て、いきなり「園長さん！わたしは棚卸しがすんどりませんもん」と切り出した。私と事務長は、キョトンとしていて、続けて「一人前でありませんもん、ウワツハハ」まだ、キョトンとしていて「棚卸しは、しとりませんけん、男になつとりませんもん、ウワツハハハハ……」やつと意味が分かって、事務長と私は顔を見合わせて大爆笑であった。彼の話は、実に爽やかなものであった。

三気の里が開園されるに当たり園生が近隣の人に性的問題を起こ

さないかと不安がられて地域で問題になり、そのたびに、田中理事長が出掛けて行っては説明したと苦労話を聞きました。私もよく尋ねられたので、説明をしたことを思い出します。

自閉症者の場合、異性への興味のように見える行動には、優しい人、良い匂いのする人だったり、髪の毛、首筋や胸の膨らみの線や表面のかんじ、スカートが風でゆらゆらする、ふくらはぎの線など様々です。年令がひくい場合は興味をもって触ったりしても、たいした問題となりませんし、事件にもなりません。ところが年長になつてそういったものに興味を示して行動したように見えると、問題になります。自閉症者が性的興味でそんなことをすることは皆無と云つて良いほどです。しかし、自閉症者と言えども誤解を受けることをしては行けないことは当然です。

女子の入浴のとき、男子園生が風呂場をのぞく事があります。目

的は首筋だったり、ふくらはぎだったり、スネた私には「なんだ！」という部分です。堂々と見せられると見向きもしません。一方、マスターベーションもしますが、異性への性的興味とは異質のようです。むしろ、独りだからできると言つた方が良いかも知れません。

自閉症者の性の問題と性教育はあまり論じられませんが、彼らも人間であり、男であり、女である訳です。避けて通る事は出来ません。私の経験からは、個々のケースで対応した方が良いと思います。一般的な性教育はむしろ危険だと思います。自閉症は、教わつたことを一般化したり、応用したり、概念化したりすることが不得手な障害だからです。具体的な場面場面で指導して行くほうが分かり易く、安心出来ると思います。「この園生には、こう言つた場合、こう指導する。」というやり方です。Nくんのように「棚(筆)おろし」がわかればもっと違つた付き

合いが出来るかも知れませんネ。



七夕祭り

田辺・橋本

私(田辺)、七夕祭りの担当でありながら、7月5日の当日は、1班の宍岐旅行へ同行する為、計画のみに参加しました。自分がいないからと言う訳ではないのですが、あまり派手にならない様にと計画しました。その結果は橋本さんどうでしたか? 1班は、車に乗って、船に揺られて、また車に乗って6時間余りの長旅にもめげず、夜は和やかに花火をして1班の七夕祭りとなりました。

その頃、園では・・・

昔々、……で始まる七夕祭りも今年で四回目となりました。毎年みんなでお願い事を書いて、笹につけて飾るのですが、その中で今回は、七夕の日に夢がなかった久美ちゃんについて書いてみたいと思います。

昨年の七夕祭りの日のホームル

ームの時に、織り姫、ひこ星を職員がするというお話がありました。そのときは、別に気に止めていない様子もなく、飾り作りの時までにここにやっていたのですが、

夕食の時、突然、織り姫と、ひこ星役の職員をたたいってしまったのです。本人に理由を聞くと、「織り姫せん!」と一言。本当は、自分が織り姫役をしたかったのです。けれど、「織り姫をしたい」との一言が言えず、たたいてしまうという行動に出ってしまったのです。

今年は、織り姫をやるということで朝からご機嫌。お願い事もいっぱい書いていました。浴衣を着る時に、「織り姫はせん!」と言ったものの、自分ができるという事が分かっているので、余裕そのもので、七夕祭りが始まるとひこ星役の木下指導員の側でここに顔で、とても楽しそうでした。

七夕祭りが終わった後「来年も織り姫様するね」と聞くと、「来

年は、あっちゃんが織り姫する  
といいよ」と答えた久美ちゃん。

織り姫役をやりたいという夢が  
なあって、満足できたんだなあと思  
いました。

☆

入園に際して



☆ 渡辺理恵子

桜が満開の4月2日、三気の里  
にお世話になることになりました。  
中学を卒業して子供と主人は私が  
勤めている関係で家で「そうじ」  
「洗濯」「食事の支度、後片付け」  
などと息の合った親子でした。

また、毎日家から2キロ位のと  
ころにある山まで山登りに行き自  
然の移り変わり、道筋の花や鳥を  
眺めながら仲良く運動を兼ねて頑  
張っていました。2年半くらい  
過ぎたとき主人の足が悪くなり、  
山登りの回数も少なくなりまし  
た。私も時々近くの公園に散歩に連  
れて行っていましたが、忙しくて  
外へ連れて行けなくなっていました。  
このままにしていたら家

### 3班 久木野の大地 《湧き水編》

真夏の太陽がギラギラと照りつける中、3班のみんなは、一所懸命になって草を取っている。軍手をはめた両手元からは、汗と、草の匂いのまじったムツとするにおいが、時々草と、草のあいだを渡ってきた風に乗って匂ってくる。汗は、とめどもなく流れ落ち、ポタポタと地面に黒い染みを付ける。

「そろそろ休憩にしましょうか〜。」大塚指導員の元気な声が響く。皆、つられたように、わらわらとその声が出たほうに集まる。…とまでは、いかない…。後に残るのは、「終わろうか。」の“合図”と同時にフル回転で草取りを始めた新ちゃんと、作業のエンジンが調子づいてブレーキのかからない憲一君だ。「オーイ、おやつだよー。」を、それから数回繰り返すことになる。

3班の久木野でのおやつはたいいてい、《中二子石妙見神社の池》という名水百選のひとつにもなっているありがたい神社の池のほとりで頂かせてもらっている。「つめた〜い！」今村指導員の声があがる。見ると、園生の内山君が、いつの間にか素足になって、池の中にサブザブと入り込んでいた。「なにしてんのさ〜。」と笑いながら言いつつ、ふと横を見ると指導員の田之上さんがおやつのクッキーを砕き、それを自らの手に乗せ子魚に与えていた。再び職員一同、“何してんのさあ”の連呼である。

このように、涼やかな池での情景を心の支えに、3班のみんなは、慣れない畑作業を頑張っているのだった。

坂本の



### 5班 「夏」

熊本の「夏」は、湿気が多く蒸し暑い、そんな季節を迎え猛暑が続いてはいるが、園生及び職員も暑さに負けること無く只今奮闘中です。

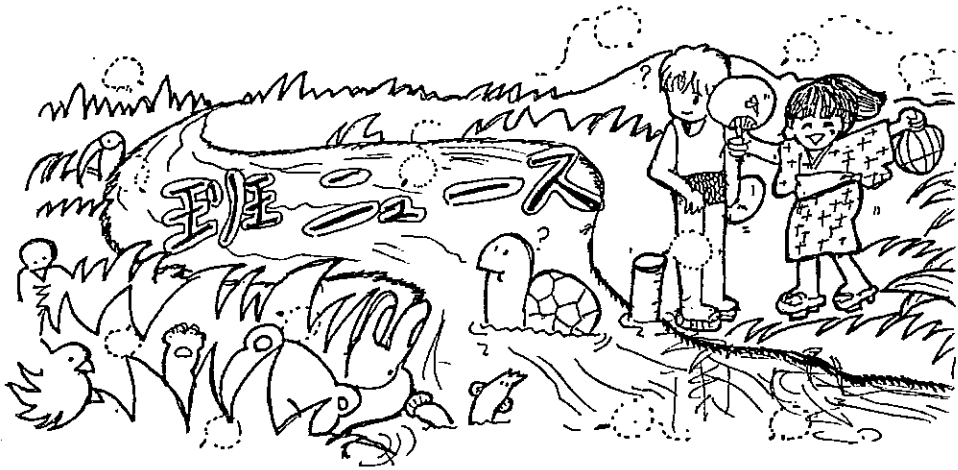
5班は、施設内外の営繕管理を中心とした作業をしています。

三気の里には、見学等で多くの方々が来園されていますので来園者が「三気の里は、いつもきれいに整備されているね。」と言われ続けられる事を目標にして、園生は、宇都宮（50才）さんと、松島（51才）さんの2人で少数ではあるが、頑張っております。

7月は、各班とも長崎県や宮崎県に2泊3日のキャンプに行ったようだが5班は暑い「夏」をあえてはずし、紅葉と温泉、グルメの旅を現在計画中です。

宇都宮さん、松島さん「夏」の暑さをけっとばして、ガンバレ！

~~「秋」の香りがもうそこまで来ているぞ~~ 末永



## 1 班 三気の里初！ 2泊3日の旅

「夏は海で泳ぎたいね！」「どうせ泳ぐならきれいなところがいいな！」1班職員の素朴な発想から、宍粟2泊3日の旅が計画されたのであった。お魚、海水浴、バーベキューとニコニコ顔のみっちゃん、ひたすらお弁当命っ子の憲ちゃん、大きなお船に揺られながら自分も揺れていた勝ちゃん、船に向かって絶叫した武ちゃん、そしてみんなお待ちかねの海水浴では、青春をエンジョイした元気印の誠くん、たいちゃん、クラゲさんとお友達になったはじめ君、水着姿がかわいかったりえちゃん、どこに行っても自然体のさとし君、いつでも一緒浜辺でも仲良しだったのぶはるさんと忠夫くん、宍粟の海の美しさにひかれて初めて海に入った潔くん、それぞれいろいろな思い出を一杯もって長いようで短かった2泊3日宍粟のたびが終了したのであった。

最後になりましたが、民宿「ふみ荘」でお世話いただいた事務長のお父さんお母さんありがとうございました。 伊石

## 2 班 できた、できた

先日2班のみんなは、近くの弥護山キャンプ場でバーベキュー大会をおこないました。毎日厳しい暑さの中、この日を待ち続け、きつ～い作業も頑張ってきたのです。今回は、お母さん、お父さんと一緒のレクでみんな心ウキウキ！あわてんぼうの2班の職員は、「〇×いれたね」、「だいじょうぶよね」と最後まで落ち着くことができません。それに比べて、「去年もきたもんね」と落ち着き払っているみんな。料理ができるまで、川遊びなんてやってみました。待ち時間が長いにもかかわらず、しっかり待つことができました。1年で、ものすごい成長です。今回はお母さん方、腕ばかりでなく、喉もふるって頂きました。もっと聞きたかったけど、時間がなくてごめんなさい！。去年からの宿題“火をスムーズにつける”もできたし、おいしいバーベキューも食べれて大満足！。涼しいところへきたのに、汗だくになって焼いてくれた俊ちゃんのお父さん、坂井さん、ごくろうさまでした。 清田

## 4班 暑い日々

6月の後半から暑さが増し、不快指数120%じゃないかと思うくらい過ごしくなりました。私達4班にとっては、地獄の様な日々が続いています。畑の草取りは、取っても、取ってもはえてくるし、根が深いため重労働です。それから、時々大雨が降っては、野菜の苗をたおしてしまうので、これ又こまったもんです。ただ一つの救いは、7月19、20、21日に行われるキャンプです。“暑い！死にそう”とつぶやいてしまうたびに、誰かが「作業頑張ろう！そしてキャンプに行こう。」とってくれるので“暑さなんかには負けない”という気持ちになれるのです。そうやって、なんとか暑い日々をチームワークでのり越えています。夏バテしている園生なんていません。但し職員の方は少々バテ気味なんですけどね。たくまじさが自慢の4班は、今日も照り続ける日差しを背に野菜を作っています。

坂本ゆ

3頁より

にばかりいて、イライラするようになり、3月のある日ちよっとした事故で子供も私も緊張感と心労が極度に達しダウンしてしまいました。どうしたら良いかと服部先生に相談しました所、自閉症専門の施設、三気の里に入所したらと紹介され理事長の田中先生を始め園長先生、事務長先生のお陰で入所出来るようになり大変お世話になりました。入所当時、緊張と不安で体調を崩したりケガをしたとき担当の坂井先生、女の先生方にも親身にお世話下さいまして本当に感謝しています。5月の週休のときも「学校に帰る、坂井先生」と言いました。きつと一人のひととして認めて接して下さいさるのだと思えました。

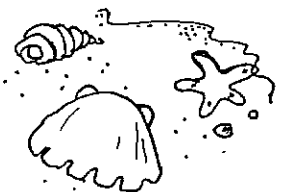
最近では柔和な顔になり少しずつ成長しているように思われます。社会性が身につく社会復帰が出来ればと祈る気持ちで過ごしています。三気の里の先生方全員に心から感謝しつつ筆を置きます。

（遠方より友来る）  
三気の里を体験して

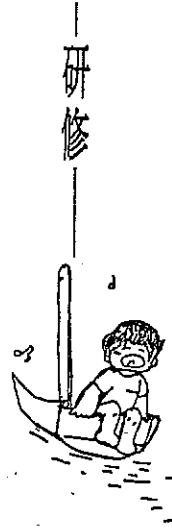
社会福祉法人 榎の里

いすみ学園 林 茂雄

7月9日より2泊3日でここ三気の里で実習させていただきました。私が勤務している千葉県はいすみ学園も自閉症の園生が多く、三気の里の園生の様子や職員の方々の働きぶりを興味深く見学させていただきました。障害が重いながらも笑顔で明るく生活している園生の姿は着実にここ三気の里に根をはやしているなあと感じさせるものがありました。そして特に職員の方々の仕事に対する熱心さ、情熱には目をみはるものがありました。技術や方法論でなく体で園生にぶつかっている様は自ら反省することも多く、大切なものを教えていただいたように思えます。



千葉に帰ってからも、空の向こうであれだけががんばっている施設があるのだな、という大きな励みをもって、これからの仕事に生かされたらなど思っています。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございます。



大塚浮子

先日、九州地区精神薄弱施設職員研修大会が鹿児島において7月3〜6日にわたって開催されました。体育研修の部と職員研修の部に分かれ、私は5日〜6日の職員研修の部に参加させていただきました。

5日は13の分科会に別れ、各々2つのテーマを設け、テーマ毎に発表があり、全体質議、グループ毎のバズセッションがありました。出席した分科会は①重度者の指導と処遇②施設と家庭と地域とのか

かわりについてというテーマした。

①ではどこの施設においても、重度者の不適応行動についてはその対応に苦心しておられるようにした。②は今後、施設が家族や地域社会へどう入った役割を果すのが課題となっていくようでした。

6日は「大久保と西郷」というタイトルで講演がありました。楽しく鹿児島島の歴史を学ぶことが出来、又、身近に感じられました。

開所して4年目を迎えた我施設も色いろなこと考えて行かなければいけないなど、未熟ながらも痛感させられた研修でした。

与えになる

栄養養の託詞

「イライラ退治にカルシウム」

毎日、暑い日が続いています。みなさんはどのような食生活で、すごしていますか？！

今回はイライラを退治することについて書きます。

イライラの原因は、いろいろあります。

カルシウム不足がそのひとつです。人間の細胞は細胞膜を通して必要な物質を取り入れ、不要になったものを排出しています。細胞のまわりのカルシウムイオン濃度が低下すると、大切な細胞膜の働きが不安定になり刺激に対して異常な興奮を起こします。

このときカルシウムを補給すると安定します。イライラの続く人にイオン化カルシウムを投与すると落ち着くのもこのためです。イライラすると思ったら、カルシウム食品を毎日とりましょう。カルシウム食品には、牛乳、ひじき、プロセステーズ、桜えび等があります。イライラをなくして暑い夏をのりこえましょう。

長友



## 8月の行事予定

1(水)体重測定	11(土)	21(火)
2(木)	12(日)	22(水)
3(金)夏祭り	13(月)	23(木)
4(土)帰宅日 職員会議 シ-?交換	14(火)	24(金)
5(日)夏季帰宅(~15日)	15(水)防災訓練	25(土)
6(月)	16(木)	26(日)
7(火)	17(金)ワックスがけ	27(月)
8(水)	18(土)	28(火)
9(木)	19(日)	29(水)
10(金)	20(月)	30(木)誕生会
		31(金)大掃除

やろう会8月の日程

2(木)荒牧・魚谷・松枝  
 23(木)中嶋・福田・岩永  
 30(木)神沢・橋村・金森  
 いつも、お手伝い御苦労様です。

後援会入会云

ありがとう

後援会会員紹介

中村涼子	大塚幸伸
魚谷ミサヲ	紫藤忠博
前田泰男	松岡淳子
桜木勇夫	江口治子
大橋孝良	緒方恵美子
中野美津子	佐々木英征
村上淳一	守 且孝
大村桂子	白浜哲也
国本寅雄	坂井省英
坂井省三	鈴木友治
清田郁雄	平川聖子
西澤 敏	小野耕三
清藤文弘	神崎二郎
岩永倫子	清田栄一

七月二十六日付け

※敬称略

ぼらんていあ通信

雨季とは名ばかりの蒸し暑い日曜日でした。頭には麦藁帽子、肩にはタオルをかけ、ぬぐっても、ぬぐっても、流れ落ちる汗を拭きながら、高校生、又は、ちっちゃなこども、そしてお母さん、草取りと、窓拭き、本当にありがとうございます！

老若男女問わずに、どなたでも又、遊びにきて下さい。待ってます。

ボランティアありがとう

パソドールのみなさん

《編集後記》

今回のたんぼぼはいろいろな人に迷惑をかけながらも、やっとの思いで出来上がりました。果して、わたしの頭が一足はやく夏休みに入ってしまったているせいか、1つ年をとってしまったか…。本当にごめんなさい。暑さに負けないようにがんばるぞ！

みか